



指もんは遺伝するの

指もんの形は遺伝する

指もんの形は、親から子へと遺伝することが多く、親と同じ形の指もんを、多くもった子どもが生まれたりするといわれています。

しかし、遺伝するといっても、子どもはお父さんとお母さんから、それぞれその特徴を遺伝しているわけなので、お父さんやお母さんと、まったく同じ指もんの形や、指もんのならび方をしているわけではありません。そして、お父さんやお母さんも、それぞれの、お父さんやお母さんから、指もんを遺伝しているわけですから、似ていても、少しずつちがう指もんの形や、指もんのならび方ができていくのです。よく、「まったく同じ指もんはない」といわれるのは、そのためです。

指もんが教えてくれること

手の指にある指もんは、何かをにぎったりつかんだりするときの、すべり止めの役目をしているという説もあります。また、足の裏の指もんについては、歩いたり走ったりするとき、すべらないようにする、役目をしているという説があります。

指もんの形には、うずまき形やゆみ形のものなどがあり、それぞれの指もんの、みぞの深さやはばは、大人になると大きくなりますが、指もんの形やならび方は、生きている間一生変わりません。

それぞれの指の指もんの形とならび方は、人によってすべてちがうため、個人を、本当にその人であると判断するのに利用されています。（監修・保志 宏）

